

ジェンダー事典

ジェンダー事典編集委員会 編

A5判・816頁 定価 26,400円(本体 24,000円+税 10%) ISBN978-4-621-30887-5



最新情報・詳細は
1こちらから
丸善出版ホームページへ

多様な視点からジェンダー平等の考え方を問う

ジェンダー事典

ジェンダー事典編集委員会 編

A5判・816頁 定価 26,400円(本体 24,000円+税 10%) ISBN978-4-621-30887-5

「ジェンダー」をテーマに幅広い分野を解説

「ジェンダー平等」は21世紀の国際社会において大きな課題とされており、SDGsでも達成目標の一つに掲げられている。日本でも、政治やメディアなどの場面で「ジェンダー」の用語が使われるようになってはいるが、「ジェンダー平等」の実現には程遠く、さらには「ジェンダー」に対する理解も十分とはいえない状況である。

「ジェンダー」は性や身体、政治、経済だけでなく、宗教や芸術、教育など、あらゆる事柄と深く関連している。

本事典では、「ジェンダー」に関する基本的なトピックから、学術・研究上のトピック、日常生活における身近なトピックまで、全18章345項目で網羅的に解説。総勢293名のさまざまな分野の専門家が編集・執筆に取り組んだ「読む」中項目事典。

関連商品



家族社会学事典

日本家族社会学会 編

A5判・754頁
定価 26,400円(本体 24,000円+税 10%)
ISBN978-4-621-30834-9

日本家族社会学会編集のもと、家族に関する多岐にわたるトピックを網羅的に扱った「読む」中項目事典。現代の家族が直面する様々な問題についても解説。



社会学理論応用事典

日本社会学会 理論応用事典刊行委員会 編

A5判・952頁
定価 22,000円(本体 20,000円+税 10%)
ISBN978-4-621-30074-9

長く歴史ある社会学の主要理論約330項目を取り上げ、初学者～研究者まで幅広い読者のニーズに応える、見開き完結の中項目事典。



BBC

シリーズ性の多様性と人権を考える

日本語字幕版監修:谷口洋幸

セット価格 132,000円(本体 120,000円+税 10%)
各巻価格 44,000円(本体 40,000円+税 10%)

DVD / 全3巻 / 1巻60分、2・3巻50分
2016年(原版 2014~2015)
日本語字幕・英語字幕版(音声:英語)
原版制作:©BBC 2015、2巻©a Rondo Media Company for Channel4 2015、
3巻©Blakeway Productions Ltd 2014

世界のセクシュアルマイノリティの考えや社会状況を追ったドキュメンタリーシリーズ。



BBC

現代女性のキャリアと活躍

—変わる世界 変える女性—

日本語字幕版監修:国広陽子

セット価格 167,200円(本体 152,000円+税 10%)
各巻価格 41,800円(本体 38,000円+税 10%)
DVD / 全4巻 / 各巻50分
2017年(原版 2016) / 日本語字幕・英語字幕版(音声:英語)
原版制作:©J.Walter Thompson Group 2016

この20年で世界の女性がかつてない進歩を果たした。女性を取り巻く環境の過去と今を知り、未来を展望する。

編集委員一覧

編集委員長

松本 悠子 中央大学名誉教授

編集幹事

伊藤 公雄 京都大学名誉教授
小玉 亮子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授
三成 美保 奈良女子大学名誉教授

編集委員

青山 薫	神戸大学国際文化学研究科教授	高岡 尚子	奈良女子大学大学院人文科学系教授
足立 真理子	お茶の水女子大学名誉教授	田中 東子	東京大学大学院情報学環教授
阿部 浩己	明治学院大学国際学部教授	谷口 洋幸	青山学院大学法学部教授
石田 佐恵子	大阪公立大学文学研究科教授	田間 泰子	大阪公立大学名誉教授
伊田 久美子	大阪府立大学名誉教授	柘植 あづみ	明治学院大学社会学部教授
伊藤 るり	一橋大学名誉教授	二宮 周平	立命館大学名誉教授
井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授	信田 さよ子	原宿カウンセリングセンター顧問
江原 由美子	東京都立大学名誉教授	野村 鮎子	奈良女子大学大学院人文科学系教授
香川 檀	武蔵大学人文学部教授	林 香里	東京大学大学院情報学環教授
堅田 香緒里	法政大学社会学部准教授	藤本 由香里	明治大学国際日本学部教授
川島 慶子	名古屋工業大学名誉教授	三浦 まり	上智大学法学部教授
川橋 範子	元名古屋工業大学教授	牟田 和恵	大阪大学名誉教授
川真田 嘉壽子	立正大学法学部教授	山田 昌弘	中央大学文学部教授
後藤 弘子	千葉大学大学院社会科学研究院教授	湯澤 直美	立教大学コミュニティ福祉学部教授
小松 加代子	元多摩大学グローバルスタディーズ学部教授	來田 享子	中京大学スポーツ科学部教授
佐藤 文香	一橋大学大学院社会学研究科教授		

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル 営業部
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

2024年1月刊行予定

注	ジェンダー事典 定価 26,400円(本体 24,000円+税 10%) ISBN978-4-621-30887-5	冊
文	お名前	冊
書	ご住所 〒	
	TEL	

取扱店

(※五十音順)

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.23.A0C

丸善出版



◆電子書籍のお求めはこちらから

※電子版発売、および販売ストア等に変更になる場合がございます。

目次

【1章:ジェンダー】

編集担当:松本悠子、伊藤公雄、小玉亮子、三成美保

ジェンダーとは/ジェンダー研究の流れ(日本)/ジェンダー研究の流れ(欧米)/ジェンダー研究の流れ(東アジア)/ジェンダー研究の流れ(世界)/ジェンダーの視点から見た歴史(日本)/ジェンダーの視点から見た歴史(欧米)/ジェンダーの視点から見た歴史(東アジア)/ジェンダーの視点から見た歴史(イスラーム圏)/アンコンシャスバイアスと好意的性差別主義/ホモソーシャル/ミソジニー/男女共同参画・ジェンダー平等/性の二重基準(二重規範)/性別役割分業/家父長制/
コラム:災害時に表出するジェンダー/コラム:フェミニズムと精神分析/コラム:本質主義/構築主義

【2章:身体と病い】

編集担当:松本悠子、田間泰子、柘植あづみ

身体観/インターセックス/性分化疾患/セクシュアル・リップロダクティブ・ヘルス/ライツ/優生思想/月経/妊娠/出産/避妊/中絶/生殖補助技術/出生前検査・診断/ジェンダー医学/性差医療/更年期/乳房・母乳/身体加工/摂食障害/精神病理/自殺/
コラム:寿命

【3章:セクシュアリティ/LGBTQ】

編集担当:三成美保、谷口洋幸

セクシュアリティ/歴史の中のセクシュアリティ/法律とセクシュアリティ/男性性/女性性/セックスワーク/性欲・性的快楽の位置付け・自慰行為/ HIV/エイズ/性的マイノリティ・LGBTQ・SOGI/クワイ研究/強制的異性愛主義/性的指向/レズビアン/ゲイの歴史/同性パートナーシップ・同性婚/トランスジェンダー・特例法/ジェンダー表現・異性装・クロスドレッシング文化/
コラム:障害者の性/コラム:男性同盟/コラム:女子校の[S]

【4章:イエ・家族・親密圏】

編集担当:小玉亮子、牟田和恵、山田昌弘

親密圏/イエ/結婚の歴史・多様性/近代家族/家庭性/恋愛/配偶者選択/家事労働/主婦・主夫/家計(夫婦関係とお金)/親密な関係と性関係/子育て/ケア/母性愛/単身者・おひとりさま・シングル/墓/家族を超える/
コラム:再婚/コラム:ポリアモリー/コラム:婚活

【5章:国連と国際社会の動向】

編集担当:三成美保、阿部浩己、川眞田嘉壽子

国連とジェンダー平等/女性差別撤廃条約/女性差別撤廃条約選択議定書/女性に対する暴力の可視化/イスタンブール条約/人身取引と国際的な規制/ハラスメント禁止条約/世界女性会議/国連の女性関連機関/国際刑事裁判/女性国際戦犯法廷/安保理決議 1325号/持続可能な社会/MDGsとSDGs/グローバル・ジェンダーギャップ指数/女性のエンパワメント原則/
コラム:コロナ禍と国連のジェンダー政策/コラム:国連と男性ジェンダー政策/コラム:国連と少女に対する有害な慣習

【6章:法律と制度】

編集担当:三成美保、二宮周平

明治民法と家制度/戸籍制度・戸籍法/日本国憲法 24条/戦後家法改正/民法改正案要綱/21世紀のパートナー関係/21世紀の親子関係/家庭内の暴力と法の介入/ケアの外部化と法的支援/性と生殖に関する法制/性売買に関する法制/男女雇用機会均等法および改正/税制・年金/男女共同参画社会基本法・男女共同参画基本計画/女性活躍推進法・候補者男女均等法/
コラム:国籍法/コラム:逸失利益の男女差

【7章:労働・経済・グローバル化】

編集担当:伊藤公雄、足立真理子、伊田久美子

グローバル化/開発と女性/生存維持経済とインフォーマルセクター/労働力の女性化/アンパイドワーク/不可視化されてきた労働/生活時間と世帯内交渉/再生産領域のグローバル化/ケアエコノミーとプロヴィジョンング/賃金・所得格差/ワーク・ライフ・バランスと男性/性別職務分離とペイ・エクイティ/雇用の不安定化・流動化/女性の貧困/デジタル化とギグ・エコノミー/金融領域のグローバル化/ジェンダー統計/
コラム:エンパワメントとエージェンシー/コラム:ベシックイカム/コラム:アントレプレナーシップ

【8章:人の移動】

編集担当:松本悠子、青山薫、伊藤るり

近代世界システムの幕あげ/先住民と植民活動/植民地帝国日本の拡張と崩壊/米軍基地とグローバル・ヒエラルキ/マスツーリズムから退職移民まで/国際移転の女性化/婚姻とグローバル化/人身取引と移住労働/国籍・市民権・在留資格/同性婚と国境を越える親密圏/ケア・チェーンと移住家事労働者/グローバル化とセックスワーク/難民とジェンダーに基づく暴力・迫害/選別的移民政策/レイシズムと排外主義/移民表象と表現活動/移住女性とフェミニズム/トランスナショナルな社会空間/
コラム:パデミックとアジア系移民排斥

【9章:社会福祉と社会政策】

編集担当:小玉亮子、堅田香緒里、湯澤直美

社会福祉研究の歩み/ノーマライゼーション/ソーシャルワーク/福祉国家・福祉レジ-

刊行にあたって（一部抜粋）

21世紀の国際社会では、「ジェンダー平等」に向けた取り組みが急速に進んでいます。しかし、さまざまな国際指標が示すように、日本社会では「ジェンダー平等」の実現がいまなお悪い現状です。日本政府も1999年に「男女共同参画社会基本法」を制定し、ジェンダー問題に政策的な取り組みを開始しましたが、未だ不十分な状況が続いています。たしかに、近年、政治やメディアにおいてもジェンダーという用語が使われるようになりましたが、ともすると「ジェンダー」は女性の問題、あるいは性の多様性の問題と限定された理解がされているように思います。「ジェンダー学/ジェンダー研究」が新しい学問分野であるために教科書でも十分な記述がなく、何となく縁遠いと感じておられる方も多いかもしれません。あるいは「ジェンダー」をなぜ論じる必要があるのか、具体的イメージがあまり掴めない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。一方、特にジェンダーを意識していないけれども、「なぜ？」と思う場面に直面した経験をお持ちの方も多いのではないかと思います。SDGsの達成目標にも「ジェンダー平等」が入っており、多様な活動や教育を通じて身近に感じておられる方も増えたのではないのでしょうか。このような多様な皆さまに、本事典を手にとっていただきたいと思います。

本事典は、「ジェンダー」というテーマについて最先端の研究成果をわかりやすく解説し、多くの読者に「読む事典」として「知」の広がり役立てていただくことを目指しています。近年、ジェンダーをタイトルに据えた入門書や解説書も多く出版されるようになりました。しかし、「ジェンダー」は、最も私的な性や身体の問題から国際政治、地球環境まであらゆる人の生活に関わる問題です。それぞれの側面に関しては多くの研究や入門書が役立ちますが、「ジェンダー」が提起する問題の全体像を俯瞰するには、本書のような新しい形の事典が最適だと考えております。本事典では、研究上の問題だけでなく、日常生活から生まれる疑問や関心にもできるだけ応えられるように心がけました。

ジェンダーの多様な側面を紹介するために、全体で18章、345項目を本事典では用意いたしました。それでもまだ紹介できなかった事項も多いのですが、本事典を開いていただくと、歴史・政治・経済・文化・科学・宗教・教育・メディアなどのさまざまな事柄が、深く「ジェンダー」に関わっていることがわかりいただけると思います。

このように「ジェンダー」に関する問題を俯瞰するために、学問領域の垣根を越えて、多くの専門家にご協力いただきました。総勢293名になります。学問領域が異なるかと視点が異なる場合も多く、また、今日の社会の抱える問題の論点は常に流動的であるため、「ジェンダー」に関するテーマ群の中には、研究者の間でも意見が分かれる問題が少なからずありません。本事典では、研究に関する論点や視点、ジェンダー平等の実践上の立場の違いや多様性もまた尊重しました。特に、重要なテーマについては、複数の章にわたって異なる研究者に執筆をお願いしました。概念の定義や理解に齟齬が起きないよう可能な範囲で調整しましたが、必ずしも論点や視点の統一は図っておりません。その方がジェンダー研究の学際性を損なうことなく、読者のみなさまにジェンダー研究の豊かさや可能性を理解していただけると考えただからです。一冊の書物の中で、多様な意見が交わされるという、事典としては新しい試みを読み取っていただくことにより、さらに読者の皆さまの理解が深まるのではないかと期待しております。

ただし、本事典の項目選定や記述にあたっては、揺るぎない共通の理解があることを強調したいと思います。すなわち、性別や性のあり方にかかわらず人間の尊厳と人権を守るというジェンダー研究の基本的姿勢が全ての出発点であることです。

本事典を手がかりに「ジェンダー平等」に向けた未来を読者の皆さまとともに描くことができれば、これに優る喜びはありません。本事典が長く読み継がれる事典になることを编者一同心から願っています。

2023年12月

編集幹事 編集委員一同



ム/年金制度/児童手当/福祉的貸付政策と女性の金融格差/社会的養護/ひとり親家族政策/保育政策/女性支援政策/ケアと介護政策/障害者福祉政策/住宅政策/若者政策/貧困と対貧困政策/精神保健福祉政策/
コラム:官製ワーキングプア

【10章:国家・政治・戦争】

編集担当:松本悠子、佐藤文香、三浦まり

個人的なことは政治的なことである/女性の代表/クォータとパリティ/女性政党・政治スクール/選挙と女性/女性首脳・閣僚・首長/政治分野における女性に対する暴力/保守化する政治と女性/ジェンダー主流化/国家フェミニズム/フェミニスト外交/軍隊/母性主義の政治/戦時性暴力/日本軍「慰安婦」問題/記憶の政治/移行期の正義/
コラム:天皇制

【11章:暴力と犯罪】

編集担当:三成美保、後藤弘子、信田さよ子

暴力とアディクション/自傷/男性性と暴力/暴力と刑事裁判/DV(ドメスティックバイオレンス)/ストーカー行為/ハラスメント/痴漢/児童虐待/性犯罪と刑法/性虐待/男性の性暴力被害/性暴力被害者支援/性産業と性暴力/加害者更生とプログラム/女性犯罪者の処遇/高齢者虐待/少年非行/
コラム:愛情と暴力

【12章:教育とスポーツ】

編集担当:小玉亮子、来田享子

子どもと教育の歴史/家庭教育/幼児教育/公教育/隠れたカリキュラム/学校統計/教科書/家庭科/体育カリキュラム/学校と規範/性教育/進学/教員の養成と育成/社会教育・生涯学習/生涯スポーツ/近代スポーツ/女子スポーツ・女子教育/スポーツにおける性の区別/オリンピック・パラリンピック/
コラム:フェミニストペダゴジー

【13章:学術と科学】

編集担当:小玉亮子、井野瀬久美恵、川島慶子

大学/セブンシスターズ(女子大学)/研究者のジェンダー比率/理系・文系/アカデミー/学術政策/科学革命/啓蒙主義と科学/戦前期の女性科学者/人文学/社会科学/数学/工学/女性医療者/ノーベル賞/女性科学者の賞/ジェンダード・イノベーション/
コラム:女性弁護士の誕生/コラム:研究の公正性/コラム:マリー・キュリーの功罪

【14章:文学・表象文化・芸術】

編集担当:松本悠子、香川禮、高岡尚子、野村鮎子

言語学/文学批評/日本古典文学/日本近代文学/中国・台湾文学/イギリス文学・児童文学/アメリカ文学/ラテンアメリカ文学/フランス文学/アフリカ文学/女性芸術家/美術史/手芸・工芸/映画/写真/ファッション・服飾/西洋音楽史/オペラ/
コラム:インドナショナリズムと女性歌手

【15章:宗教と信仰】

編集担当:伊藤公雄、川橋範子、小松加代子

ジェンダーの視点から見た宗教/キリスト教とフェミニスト神学/イスラームと原理主義/仏教と女人成仏/ヒンドウ教/道教/儒教/神道/新宗教/沖縄の民俗宗教/女人禁制・穢れ・修行・禁欲/伝説・怪異/女神と魔女/スピリチュアル/聖職者の性暴力/宗教とエスニシティ/宗教調査/
コラム:宗教とLGBTQ

【16章:情報・メディア・消費社会】

編集担当:伊藤公雄、田中東子、林香里

マスメディア/ソーシャルメディア/広告・コマーシャル/フェミニストメディア/ジャーナリスト/アナウンサー/キャスター/スポーツジャーナリズム/メディアリテラシー/ステレオタイプ/インフォテインメント/論壇/女性雑誌・男性雑誌/ポストフェミニズムとメディア/消費社会・ポスト消費社会/マーケティング/アルゴリズムバイアス/フェムテック/
コラム:ポピュラーフェミニズムとポピュラーミソジニー/コラム:日本のメディアと研究における男性性/コラム:韓国フェミニズムとソーシャルメディア

【17章:ポップカルチャー】

編集担当:伊藤公雄、石田佑志子、藤本由香里

少女マンガ・レディースコミック/少年・青年マンガ/BL(ボーイズラブ)/少女小説・ライトノベル・ハーレム/ポルノコミック/コミックと表現規制/アニメーション/ゲーム/コンテンツツーリズム(聖地巡礼)/おたく(オタク)/ドラマ/ポピュラー音楽/アイドル/韓流/カワイイ文化/宝塚文化/女性芸人・お笑いタレント/
コラム:AV(アダルトビデオ)女優として/コラム:特撮と「戦隊もの」/コラム:ルッキズム

【18章:社会運動】

編集担当:伊藤公雄、江原由美子

市民革命とフェミニズムの誕生/女性の参政権運動/社会主義フェミニズム/フェミニズムと雑誌運動/主婦運動・消費者運動・母親運動/1968年とラディカルフェミニズム運動/日本社会とリブ・フェミニズム/ポストコロナルフェミニズム/第3波フェミニズム/中絶法をめぐる闘い/公害運動・環境運動/女性に対する暴力撤廃の運動/複合差別的な闘い/労働運動/男性運動/LGBTQ運動の広がり/平和運動/パクラッシュ/
コラム:ミュージニリズム

引用・参考文献・事項索引/人名索引